



2023年9月1日（金）17：00～22：00

〈3日目〉

「ワークショップ②」

- 前半 Kōrari（コーラリ）体験②
コーラリ（マオリ・マーシャル・ダンス）を体験するプログラム
- 後半 戯曲『Purapurawhetū（プラプラフェトゥ）』（抜粋）シーンスタディ②

■コーラリ体験

講師と参加者はコーラリ（棒）を持ち、全員で円になる。タネマフタ氏の掛け声でお祈りをしたのち、昨日のコーラリ体験のおさらいをする。

その後、新しい攻撃の動きも加わりながら、列の編成も変えていく複雑な動きが指導されていく。

<ハカの掛け声とコーラリ>

○**タネマフタ** コーラリとハカをやります。

以降、タネマフタ氏による掛け声を参加者が復唱する時間が続く。

○**タネマフタ** これからアクションをやります。私と同じ言葉を繰り返してください。さっき最前列にいた人が前に来ててください。

タネマフタ氏が、ハカの掛け声に対応するコーラリの新しい動きを教える。参加者、声を合わせて動く。

○**タネマフタ** 円になります。山と川がシンボルになって、それがコーラリになって、動きを付けて、みなさまに今やってもらったものになっています。



全員で円になり、お祈りをする。

○**タネマフタ** 今日やったことはきちんと自分の中に吸収して、また明日。コーラリをしまつて、少し休憩して、その次のセッションに移ります。

■戯曲『プラプラフェトゥ』（抜粋）シーンスタディ・2日目

○**ブライア** 今日やるのは、クライマックスのシーンになります。

昨日と同じグループで、昨日と同じ役をやってください。演出家の方は、今日も演出をやっていただきたいんですけども、ラマリという新しい女性の役が出てくるのでそれもやってください。

ラマリはそのコミュニティーの中では生まれていないんですけども、今回自分のコミュニティーに戻ってきて、マオリの習慣を初めて習い始めたということになります。

パパという役は殺された赤ちゃんで、スピリット。登場はしません。実際の劇の中では、声だけになっています。

ホヘパとマタ以外の人が、小さいハカ、聖なる歌をやります。あとでグループになって練習します。

○**ブライア** クイがアギー・ローズで、ホヘパもおじいさんではなく若い時からじまります。アギー・ローズがトゥクトゥクのパネルを編むところから始まって、編んでる最中、子どもの頃のマタが登場します。マタはホヘパの実子です。

ものすごく嫉妬深い男の子で、ホヘパとアギー・ローズが結婚した時も嫉妬がすごかった。赤ちゃんにはまだ名前がなく、パパが赤ちゃんという意味なのですが、パパ、パパ、と呼ばれています。マオリの世界では、名前がないまま赤ちゃんが死んでしまうと、それがスピリットとして帰ってくる。

ホヘパは赤ちゃんにアワテアという先祖由来の名前をつけようとしていて、ネックレス（ポウナム）もアワテア、という。小さな赤ちゃんにはパワーがあまりにも強すぎる名前だから、アギー・ローズは名前をつけるのはまだにしましょうと言う。

どうしてこのトゥクトゥクのパネルをミシンでやれないのかなと思って窓の外を見たら、マタが赤ちゃんを連れて海に出て行くのが見える。マタが赤ちゃんを海に落として、赤ちゃんが溺れてしまっているところを、アギー・ローズは見る。

ホヘパにしてみるとマタは実子なので、マタがそんなことをしたということはみんなに知られたくない、だから隠している。

アギー・ローズはものすごく怒って、最初に建てられた集会所を燃やしてしまう。

今のシーンのところでマタが入ってきて、そうすると今までアギー・ローズだったのがクエに変わって、マタはクエが誰だかわからない。

マタは、土地を自分の名前にしてくれと怒りながら入ってくる。

クエは、あなたの名前じゃなくてタイラーの名前にしちゃったよ、と言う。その場面のところで、今まで海でパウアを探していたホヘパが少し正気に戻る。

月の神と海の神と風の神と太陽の神、ホヘバはその4つの神様に、どうか助けてくれ、自分の死んだ赤ちゃんを探してくれ、と。

実際には見えないんですけども、赤ちゃんの精がマタにチャレンジをします。

蘇ってきたババが、マタに「名前を言え、名前を言え」と。そこで、ババの声でチャント（聖なる歌）が流れる。ババが、「名前を言え、言え」と。マタは自分がしたことを認めて、アワテアという名前を赤ちゃんに渡す。

最後におじいちゃんが、マタだけのせいではなく、みんなの責任だと言う。

ブラブラフェトゥというのがトゥクトゥクのパネルにあるんですけど、その星が赤ちゃんになる。

○参加者 一応確認で、アギー・ローズはマタが実際にババを殺したのを見ていたんですか？

○ブライア はい。赤ちゃんはアギー・ローズが作った黄色の服を着ていたの、それが見えた。

○参加者 なぜ、アギー・ローズは助けに行こうとしなかったのか？

○ブライア アギー・ローズは実際に行ったんですけど、間に合わなかった。

○参加者 クライマックスで、マタがアワテアという名前を返すというのがよく分からなかった。ホヘバはアワテアという名前をつけようと思っていたんですよね？ 何でマタが名前を言うというのがクライマックスなんですか？

○ブライア マタが自分のしたことを認める、ということに繋がる。

○参加者 名前をババに返すということが？

○ブライア 本当はその名前をババがもらうことになっていたということ、マタが認めるというシーンになります。

ポウナムは先祖から代々受け継ぐものにも名前が付いている、それが「アワテア」と

いう名前で、それをマタが持って行ってしまったということは、名前を持って行ってしまったということになる。

○参加者 アワテアというのは、スペシャルな名前をホヘパが付けたのでしょうか？それとも一般名詞としてアワテアと呼ばれているものなのですか？

○ブライア 先祖の名前ですね。ホヘパのポウナムはアワテアとも呼ばれていた。

○参加者 23ページに出てくるトワンガとは？

○コーディネーター トワンガというのはポウナムと一緒にの意味で、ポウナムは緑の石という意味もあって、トワンガはどちらかというと家宝という意味。つまり宝物ですね。

○ブライア マタがどういう風にババを連れていったのか、という話が出てくる。

○参加者 15ページの「腹を墓場まで突き出して」とは？

○コーディネーター これはものすごくマオリ独特の表現で、私も日本語にできなかったので、ブライアに説明してもらいます。

○ブライア プクはお腹。キエキエという葉っぱの丸くなっている表面のところをプクと言います。

トックトックを編む時にこのキエキエのお腹側を上にして、ということで「プク、アップ」と言います。

それで向こうの丘の上に、お墓があるんです。ウーパというのがお墓という意味なんですけれど、お墓に向かって上にあげていくという意味です。

○参加者 マオリのお墓はだいたい丘の上にあるから、例えて、織り方を教えているということですか？

○コーディネーター そうですね。

○参加者 その下にある、プアンガって何ですか？

○コーディネーター 星のことですね。日本でも源氏星、と言いますかね？

○参加者 今日やるのはこのシーンですよね？ けっこうすごいボリューム。

○コーディネーター なので、もう始めた方がいいですね。

○ブライア 昨日ものすごく上手くてできるし、今日はそれほど大変じゃないと思います。(参加者から笑いが起こる。)

○ブライア 25ページの下の方。日本語になっているので、マオリの言葉で綴ってください。ホヘパとマタ以外の人が歌ってください。

○タネマフタ 「ファカロンゴ キテタギ ホトゥホトゥ モケモケ コーワイ テイ
ネイ ワイルーワ エ」

歌がホワイトボードに書かれ、それを全員で復唱する。

○ブライア 同じ言葉を何度も繰り返し、最後の方に行くにつれて音が大きくなります。

参加者は2グループに分かれて相談、読み合わせをし、やがて動きながらの稽古をする。その間、ブライア氏はそれぞれのグループを行き来して様子を見たり、質問に答える。

<戯曲『プラプラフェトゥ』(抜粋) シーンスタディ 2日目の発表>





○**実行委員** 2グループともありがとうございました、お疲れ様でした。時間なので、ブライアからひとことコメントをもらって、Q&Aは明日に回しましょう。

○**ブライア** まずは最初に、本日はどうもありがとうございました。素晴らしい作品になっていました。いろんな感情、笑うところも泣くところもあって、そんな思いをしながら見ました。

トックトックパネルの中にもものすごくストーリーが織り込まれていく、そういったことが表現できていました。とても身体性のある動きも入っていて。一生忘れられない思い出になりました、ありがとうございます。

○**コーディネーター** では、終わりのお祈りをいたします。

全員円になり、手を繋ぎ、目を瞑ってお祈りをする。